

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		玉野市児童発達支援センター		公表日		2025年 3月 12日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと 思われる点など	課題や改善すべき点	
環境 制 運 備 営	1	訪問支援に使用する場合の教員教材は適切であるか。	3	0	対象児にあったものを提供できるように努めています。	特になし。	
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	0	法令に基づき、適正に配置しているが、他の兼務業務や勤務体制によっては対応にイレギュラーが生じることがある。	児童発達支援との連携により、適切な職員配置に努めていく。	
業 務 改 善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3	0	毎日朝終礼を実施し、全体で課題を共有できるようにしている。	担当者だけではなく、関係機関の意見も取り入れながら実施していく。 十分な時間の確保。	
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	0	今年度は訪問実績がないため、アンケートの配布はないが、実績に基づき意向調査により、ニーズに沿った支援が実施できるよう努めていきます。	児童発達支援との連携により次年度はサービス提供の実施に努める。	
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	0	職員会議等で事業状況について意見交換を行う機会としており、必要に応じて改善を図っている。	職務状況シートの配布はあるが、面談機会が少ない(年1回)。	
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	0	コンサルテーションや園開放等の機会を使い、出来る限り外部からの目を入れるように工夫している。	第三者委員等、外部からの評価機会がない。	
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3	0	法人内、部門内、拠点内、事業所内等での研修機会が多く、職員からの研修伺いにも対応している。	引き続き、研修参加を通し、支援にかかる専門性を高めていく。	
適 切 な 支 援 の 提 供	8	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	3	0	アセスメント力を高めるため、コンサルにて学ぶ機会を設け、多角的な視点を以て計画に反映させるよう努めている。	引き続き、研修参加を通し、支援にかかる専門性を高めていく。	
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3	0	当事者(利用児)に関わる複数の職員でカンファレンスを行い、多角的な視点で支援計画の作成に努めている。	事業所内、関係機関からの意見を取り入れながら、お子様、ご家族に最適なプランの作成に努めていく。	
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	3	0	今年度は訪問実績がないため、実施に際しては関係機関との情報共有のもと、全体最適で支援が行えるよう努めていく。	事業所内、関係機関からの意見を取り入れながら、お子様、ご家族に最適なプランの作成に努めていく。	
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3	0	記録を閲覧しやすいよう記録用のシステムを導入している。	引き続き、担当者間での密な情報共有に努めていく。	
	12	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	0	特性に応じてはフォーマルなアセスメントツール(太田ステージ)を使用しているが、園等の集団生活における利用児の行動観察及び関係者からのヒヤリングによりアセスメントを実施している。	環境を含めて様々な角度からアセスメントできるように努めていく。	
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	3	0	ガイドラインに基づき実施している。	引き続き、ガイドラインに準じて実施していく。	
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3	0	実施に際しては、支援計画をもとに担当者間で目的、目標の共有、リスク想定等の検討を行っている。	引き続き、担当者間での密な情報共有に努めていく。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	0	勤務表や週案カレンダー、日案により活動状況(予定)について共有できるようにしている。	引き続き、担当者間での密な情報共有に努めていく。	
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	0	実施後には振り返りの機会を設け、担当者間で課題共有及び次回の引継ぎを行うよう努めている。	PDCAを意識して取り組んでいけるよう努めていく。		

関係機関や保護者との連携	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	3	0	当方が主体的となり一方方向にならないよう留意し、先方の環境や保育理念に沿った視点で支援を行うよう配慮している。	関係機関との情報共有を大切にしながら、支援の展開に努めていく。
	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	3	0	記録システムの導入により、支援・リスク・健康管理等の項目を分けることによって、必要なカテゴリー検索を行うことができ、お子様の変化に気づきやすいようにしている。	PDCAを意識して取り組んでいけるよう努めていく。 お子様の成長の積み上げが客観的に明記できるようになれば良い。
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3	0	個々の必要な時期に保護者との懇談、相談支援専門員と担当者会議を開き、支援計画の進捗、今後の支援展開について、検討を行っている。	引き続き、変化が生じた際には情報共有、支援提案に努めていく。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3	0	保育所等訪問支援に関わる職員が参加することとしている。	引き続き、担当職員が参加する。
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	0	必要に応じて関係機関に報連相することとし、主観的な支援にならないよう努めている。目標は一人一人への支援連携体制構築を行っていく必要がある。	主観的な支援にならない様、情報共有に努めていく。
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	0	支援内容については、就学先の期間に対して支援に関わった時系列にまとめた資料提示により、情報共有を図るよう努めている。	引き続き、関係機関との連携を大切にしてい
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	3	0	・支援に関する根拠や組織作りを目的として、専門家からのコンサルテーションを定期的に受講している。	引き続き、研修参加を通し、専門性を高めていく。
24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	3	0	毎回参加している。	協議会の取り組みとして、インクルージョンを意図した活動は必要かと考える。	
25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	3	0	利用者には適宜懇談機会を持つようし、その都度子どもの状況報告や保護者の不安等を聴く機会としている。支援側として相談しやすい環境作りを目指している。	相談のしやすさについては、環境面を含めて適宜検討していく。	
26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	0	拠点内の別事業所が中心となってペアトレの企画を行っており、その企画については保護者に情報提供している。	引き続き、情報発信に努める。	
保護者等への説明等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3	0	入園児や契約書、重要事項説明書に変更があった際には書面、口頭で説明している。	特になし。
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	3	0	双方の担当者間で目的を共有し、利用者、関係機関の合意のもとで支援を実施するよう努めている。	支援計画とともに利用者にわかりやすい説明と提示に努めていく。
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3	0	懇談にて聞き取りを行い、計画に反映しているが、本来は更に細やかなコミュニケーション機会が必要であり、日ごろからの会話でニーズ抽出できるよう努める。	左記のとおり、懇談だけではなく、平素からの対話の中で希望する生活を把握し、プランに反映していけるよう努める。
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	3	0	説明の後に同意を得ている。	特になし。
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	3	0	家族発信や事業所発信により、適宜必要な面談、支援はできている。	引き続き、保護者の声にこまめに反応できるよう努めていく。
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	0	保護者会主催の勉強会を開いているが、きょうだい児については、当方も今後の学習課題として取り組んでいく。	引き続き、情報発信に努める。
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3	0	児発管を中心に、家族からの申し出については迅速に対応するよう努め、必要に応じては専門家も交えて対応させて頂いている。	関係機関との連携のもと、迅速な対応ができるよう努めていく。
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3	0	毎週HPの活動報告をアップデートし、日々の様子をお伝えしているとともに、通信によって先の予定を周知している。	引き続き、取り組んでいく。

	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3	0	不要な書類、メモは適宜シュレッダーにかけるよう気を付けている。 肖像権については、配布前に各家庭に確認している。	引き続き、個人情報を保護するための徹底した取り組みに努める。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3	0	個別に配慮したスケジュールや視覚支援、環境設定を行っており、保護者に対しても不安がないよう個別的な説明や補足を行い配慮としている。	支援者の主観にならないよう、保護者や関係機関の意見を確認しながら進めていく。
訪問先施設への説明等	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	3	0	訪問支援に際しては、実施前後での目的共有や情報交換を行う機会を設けているため、その機会を通じて必要に応じた助言を行うよう努めている。	先方の状況を加味しながら、適宜情報共有の場が持てるよう努めていく。
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	3	0	実施に際しては、一方方向にならないよう関係機関を交えてカンファレンスを行うようにしている。	双方の意見によって、見立てができるよう努めていく。
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	3	0	連絡帳や電話連絡、対面において、情報共有を図るようにしている。	引き続き、左記のとおり実施していく。
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3	0	不要な書類、メモは適宜シュレッダーにかけるよう気を付けている。 肖像権については、配布前に各家庭に確認している。	引き続き、個人情報を保護するための徹底した取り組みに努める。
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	3	0	実施に際しては、一方方向にならないよう関係機関を交えてカンファレンスを行うようにしており、訪問先の園の先生方も療育に触れて頂けるよう療育環境の開放機会を設けている。	双方の意見によって、見立てができるよう努めていく。
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	0	訓練は法令に基づき実施し、都度家族にも状況報告を行っているが、今後の災害対策については協働訓練の実施は必要と思われる。	引き続き、安全計画に基づき、対策を講じていくこととし、状況に応じて適宜マニュアルのアップデートに努めていく。 必要に応じて施設の安全点検等も周知していく。
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	0	担当を振り分け、日々の安全点検とヒヤリはつとの検証によって、事故防止に努めている。 修繕が必要な箇所については、早期に修繕依頼し、二次災害が発生しないよう留意している。	引き続き、安全計画に基づき、対策を講じていくこととし、状況に応じて適宜マニュアルのアップデートに努めていく。
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3	0	ヒヤリハットにより検証する機会を設け、部門内のリスク委員会とも連携し、研修機会を設けている。	多角的な視点でリスク検証し、事故防止に努めていく。
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3	0	月に一度全体で振り返りを行っており、法人内の虐待防止委員会と連携し、研修の設定や個々のアンケートによって、虐待の芽を把握する取り組みを行っている。	引き続き、研修や日々の検証機会の中で権利擁護に対する意識が高まるよう努めていく。
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3	0	お子様の安全を最優先するために、支援計画に記載し、保護者には同意を頂いたうえで実施し、機会があった場合には報告を行っている。	保護者との懇談を通じて、想定される状況を協議したうえで計画を立案し、日々の支援状況については、適切な説明ができるよう努めていく。